

第三問

次の(A)・(B)の問題にそれぞれ解答せよ。(百点)

(A) 次の文章は『大鏡』の一節である。平安時代に藤原氏が建立した浄妙寺・極楽寺・法性寺(ほうしょうじ)という三つの寺について、それぞれが建立されるきっかけとなった出来事が語られている。よく読んで、後の設問に答えよ。

浄妙寺は、東三条のおとどの、大臣(だいじん)になりたまひて、御慶(よろこ)びに木幡にまゐりたまへりし御供に、入道殿(にんどう)具したてまつらせたまひて御覧(ごらん)するに、「多くの先祖の御骨(ごこつ)おはするに、鐘の声聞きたまはぬ、いと憂きことなり、わが身思ふさまになりたらば三昧堂(さんまいだう)建てむ」と、御心のうちに思し召し企てたりける、とこそうけたまはれ。

昔も、かかりけること多くはべりけるなかに、極楽寺・法性寺ぞいみじくはべるや。御年なんどもおとなびさせたまはぬにだにも思し召しよるらむほど、なべてならずおぼえはべるに、いづれの御時とはたしかにえ聞きはべらず、ただ深草(ふくくさ)の御ほどにやなどぞ思ひやりはべる。芹河(せりかは)の行幸(みゆき)せしめたまひけるに、昭宣公(しょうせんこう) 童殿上(どうでんじやう)にてつかうまつらせたまへりけるに、帝、琴(きん)をあそばしける。この琴弾く人は、別の爪(つめ)つくりて、指にさし入れてぞ、弾くことにてはべりし。さて持たせたまひたりけるを、落としおはしまして、大事に思し召しけれど、また作らせたまふべきやうもなかりければ、さるべきにてぞ思し召しよりけむ、おとなしき人々にも仰せられずて、幼くおはします君にしも、「求めてまるれ」と仰せられければ、御馬をうち返しておはしましけれど、いづくをはかりともいかでかは尋ねさせたまはむ。見つけてまゐらせざらむことのいといみじく思し召しければ、「これ求め出でたらむ所には一伽藍(がらん)を建てむ」と、願(ぐわん)じ思して、求めたまひけるに、出できたる所ぞかし、極楽寺は。幼き御心に、いかでか思し召しよらせたまひけむ。さるべきにて御爪も落ち、幼くおはします人にも仰せられけるにこそははべりけめ。

さて、^(注七)やむごとくならせたまひて、^(注八)御堂^{みだう}建てさせにおはします御車^(注十)に、^(注九)貞信公^{ていしんこう}はいと小さくて具したてまつりたまへりけるに、^(注十二)法性寺^{ほうじやうじ}の前^(注十三)わたりたまふとて、「父^{ちち}こそ。こここそよき堂^(注十四)所^{どうじよ}なんめれ。ここに建てさせたまへかし」と聞^(注十五)こえさせたまひけるに、^(注十六)いかに見てかくいふらむと思して、さし出でて御覽^{ごらん}すれば、まことにいとよく見えければ、^(注十七)一幼^{ひとこ}き目にいかでかく見つらむ、さるべきにこそあらめ」と思し召して、「げにいとよき所^(注十八)なめり。汝^なが堂^{だう}を建てよ。我^{われ}はしかじかのことのありしかば、そこに建てむずるぞ」と申させたまひける。幼^{わか}き御目に、いかでよき所と御覽^{ごらん}じけむ。さるべくおはします人は幼^{わか}くより瑞相^{ずいさう}どものおはしますにこそ。さて、法性寺は建てさせたまひしなり。

〔大鏡〕より〕

〔注〕 (一) 東三条のおとど——藤原兼家(九二九～九九〇)。以下の「大臣^{だいじん}になりたまひて」とは、九七八年の右大臣任官のこと。

(二) 木幡——現在の京都府宇治市の地名。藤原氏一門の墓所があったところ。

(三) 入道殿——藤原道長(九六六～一〇二七)。兼家の子。この年十三歳。

(四) 三昧堂——僧がこもって、念仏に専念する堂。

(五) 深草——深草の帝。仁明天皇。在位は八三三～八五〇年。

(六) 芹河の行幸——「芹河」は現在の京都市伏見区下鳥羽あたりの地。この行幸は八四四年のこと。

(七) 昭宣公——藤原基経(八三六～八九一)。この年九歳。

(八) 童殿——貴族の子弟が見習いのため、宮中への昇殿を許されること。そうした身分にある子供。

(九) 別の爪——琴を弾く時に付ける特別の爪。

(十) やむごとくならせたまひて——主語は昭宣公(基経)。ここから数十年後の話に移る。次の「御堂^{みだう}」は前出の「伽藍^{がらん}」のこと。